

Report

Hokkaido Soil Research Cooperative Association

SRC



2023. 3
No. 399

ISSN 1342-1409

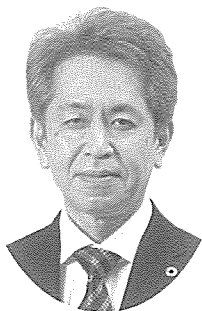
北海道土質試験協同組合広報誌



表紙写真
[写真説明]
洞爺湖温泉から望む蝦夷富士(羊蹄山)

目 次

1. 巻頭言.....	1
明治コンサルタント株式会社 代表取締役社長 原口勝則 『着任の挨拶に代えて』	
2. 令和4年度第8回理事会議事録.....	3
3. 新理事長就任のお知らせ.....	3
4. 技術部からのお知らせ.....	4
5. お知らせコーナー.....	5
第58期通常総会開催について 第38回技術者懇談会開催について 新職員の紹介	
6. 部門別試験実績	6
12・1月分	



『着任の挨拶にかえて』

明治コンサルタント株式会社
代表取締役社長 原 口 勝 則

みなさまはじめまして、明治コンサルタント株式会社の原口でございます。

2022年6月代表取締役社長に就任し、札幌市の本社に着任いたしました。早いもので9カ月が経とうとしています。

私は、現在の任に就く前、国際航業株式会社にて公共コンサルタント事業部の副事業部長として、国土環境保全に関わる部門の統括を行っておりました。技術的な専門分野は砂防で、入社当時には砂防施設の計画設計や土砂災害の危険箇所調査、総合土石流対策計画などに携りました。その後、火山噴火対策計画や土砂災害警戒情報のための警戒避難基準雨量の設定、警戒避難システムの構築、深層崩壊調査など、ハード対策からソフト対策まで幅広く携わってきました。

北海道においては、有珠山、樽前山、雌阿寒岳など、火山噴火対策に関する調査や計画立案等にご縁があり、中でも、有珠山2000年噴火後の土砂災害対策については、これまでの中でも貴重かつヘビーな経験として記憶に残っています。

当時のことを思い出すと次のとおりです。

2000年3月27日に火山性地震が発生し、29日までに地震回数が急増したため気象庁が緊急火山情報を発令、3月30日に山体や山麓付近に地割や亀裂が多数確認され、噴火の切迫が認識されました。3月31日13時過ぎ、西山西麓の国道235号隣接斜面においてマグマ水蒸気爆発(噴火形態のひとつ)が発生し、一連の噴火活動が始まりました。年度末の繁忙期を終えようとしているときでした。

4月1日には、西山西麓に新たな火口を形成して噴火が継続し、さらに洞爺湖側の金比羅西山西麓で噴火が始まりました。4月6日頃まで断続的に噴火が発生し、次々と火口群を形成していきました。また、一部の火口からは熱泥流が噴出し、西山川の流路工を流れ下りました。4月11日には西山川流路工に堆積した泥流が溢れ始め、洞爺湖温泉に流出しました。そして、新年度に入り休む間もなく現地入りとなりました。

5月に入るとやや活動が収まり始め、5月22日には噴火予知連からマグマ活動が低下していると発表されました。その後、噴火活動の消長を繰り返し、7月10日には一連の噴火活動が終息に向かっていると発表されました。この時期、現地での調査も増え、緊急・応急対策の検討が本格化し、多忙を極める毎日となりました。忙し過ぎてあまり覚えていないほどです。

これらの一連の噴火活動によって、火山灰と噴石が多量に放出され、火口群の周辺を中心に噴出物が厚く堆積しました。さらに、マグマの上昇に伴う地殻変動によって西山西麓から金比羅山にかけての地域が隆起し、おびただしい亀裂や断層が形成されました。

噴火による火山噴出物が厚く堆積すると、その後の降雨によって浸透能が低下し、表面流の増大によるリル・ガリ侵食の発達、引いては土石流が発生しやすくなることが知られています。このため、初期の応急対策は避難対象エリアの特定や、基準雨量の設定、降雨の度に浸透能の変化を踏まえて基準雨量を見直すことが主な課題となりました。また、西山西麓の火口丘が崩れるのではとの心配もあり斜面安定解析も行いました。その後、恒久対策として流域形状の変化や荒廃状況を踏まえた砂防計画の立案、火山砂防激甚災害対策特別緊急事業による砂防施設整備などが目まぐるしいスピードで進められていきました。週替わりで異なる課題に対応していくことの繰り返し、一年に渡る激闘の日々でした。

このように、時々刻々と変化する火山噴火活動に応じて対応すべき課題もどんどん変化します。立ち入り規制区域も変化するため、調査できる範囲や調査方法にも工夫が必要です。航空レーザー計測や無人ヘリ調査、無人化施工など、今で言うDXの先駆けとなるような様々な調査手法が試されたのもこの有珠山2000年噴火だったと思います。TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の走りともいえる土砂災害専門家チームの活躍も注目されました。

あれから20年以上が過ぎ、これまでと同じ程度の間隔で噴火するならば、もうそろそろではないかとの声も聞こえます。火山防災に先進的に取り組まれてきた地域であったこともあり、2000年噴火の際には幸いにも人的被害はありませんでした。次の噴火でもそうあって欲しいと願っています。

自己紹介を兼ねて、北海道での経験談を思い出すままに紹介させていただきました。再びこの地で社会貢献できることを不思議な縁を感じつつ嬉しく思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

参考文献

- ・安養寺・西尾・原口(2001):2000年有珠山噴火後の降雨状況と土石流への警戒避難対応、平成13年度砂防学会研究発表会概要集、pp.222-223
- ・防災情報通信システム研究会(2003):防災情報通信システム、山海堂、pp.42-49
- ・内閣府:有珠山噴火災害教訓情報資料集
(<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/usuzan//dload.htm>)

令和4年度 第8回理事会 議事録

1. 開催日時 2. 開催場所 3. 理事総数 4. 議事の経過の概要	<p>令和5年1月23日（月） 午後1時30分 組合会議室 7名 議案（1）事業報告</p> <p>令和4年度12月の事業実績資料に基づいて報告した。12月の売上げは計画を上回っており、通期でも計画を上回っていることが報告された。12月までの原価および原価率は昨年より若干低く推移しており、一般管理費については昨年より増加していることが報告された。今後を含めた受注状況は昨年度と同等で推移しており、年間計画売上達成が可能と予想されることが報告された。</p> <p>（有）共同土質試験の営業実績についても審議し、売上げは計画を若干下回っていることが報告された。</p> <p>議案（2）その他</p> <p>ア. (株)北海道技術コンサルタント関部健治代表取締役社長との面談で組合員への加入意向を確認し、新年度令和5年4月に加入申請を予定していることが報告された。</p> <p>イ. 職員採用活動として、12月5日より試用期間中であつた國枝拓司について勤務状況が極めて良好なため2月1日付けで正職員として採用することが報告された。</p> <p>ウ. 次回理事会は、令和5年3月22日（水）に開催することを決定した。</p> <p>エ. 本日1月23日（月）付けで関根幸博理事長から理事長および理事の辞任届が提出されたため、本理事会において、舟田幸太郎理事が新理事長に選任され、即時就任を承諾した。ただし、令和5年1月24日付を以って就任することを付け加えた。</p>
--	--

新理事長就任のお知らせ

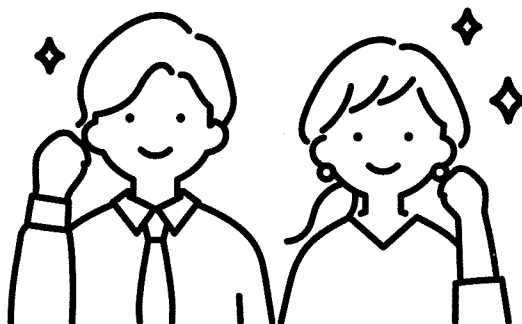
関根幸博理事長の辞任に伴い、1月23日開催の理事会にて、北海道士質試験協同組合同定款第28条に従って舟田幸太郎氏(株式会社エーティック代表取締役社長)が新理事長に選任されましたのでお知らせいたします。

技術部からのお知らせ

(1)2023年度試験担当窓口

2023年度の業務受付窓口をお知らせいたします。受付時は主担当者と打ち合わせていただきたいと思います。物理・力学、岩石・X線分析など多部門の試験がまたがる場合は、どちらかの主担当者から他部門の担当者に申し送りさせていただきます。主担当の部門以外で試験内容に不明点がある場合はその試験部門の担当者から再度連絡させていただきます。

試験部門名・試験名	主担当職員
1. 物理試験	場谷
2. 力学・岩石試験全般	宇山
・一軸圧縮試験、圧密試験、配合試験、その他の力学試験	宇山
・三軸圧縮試験、繰返し三軸試験、透水	高橋
・岩石試験	前田/國枝
3. 骨材試験・材料試験	越前
4. 凍上試験	小林
5. コンクリート試験・砂防ソイルセメント試験	金谷
6. 原位置試験	伊藤
7. 化学試験・X線分析試験	八島
8. 電子納品業務、地盤情報検定業務	山内(一)
9. 地盤情報検定業務、機器貸出	伊藤





2023年度（第58期）通常総会開催について

2023年度通常総会を下記の通り開催いたします。

記

日 時：令和5年5月31日（水） 午後4時00分から（予定）

場 所：ニューオータニイン札幌

札幌市中央区北2条西1丁目1-1 TEL011-222-1111

第38回技術懇談会開催について

組合員技術者と組合職員の交流促進を目的とした技術懇談会を下記の通り開催致します。詳細につきましては後日ご案内いたします。多数のご参加お待ちしております。

記

日 時：令和5年6月20日（火） 午後2時00分から（予定）

場 所：札幌コンベンションセンター

札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1 TEL011-817-1010

新職員の紹介

当組合技術部に新職員を迎えました。皆様の温かいご指導をお願いいたします。

氏名：國枝 拓司(クニエダ ヒロシ)

生年月日：昭和62年5月7日(35歳)

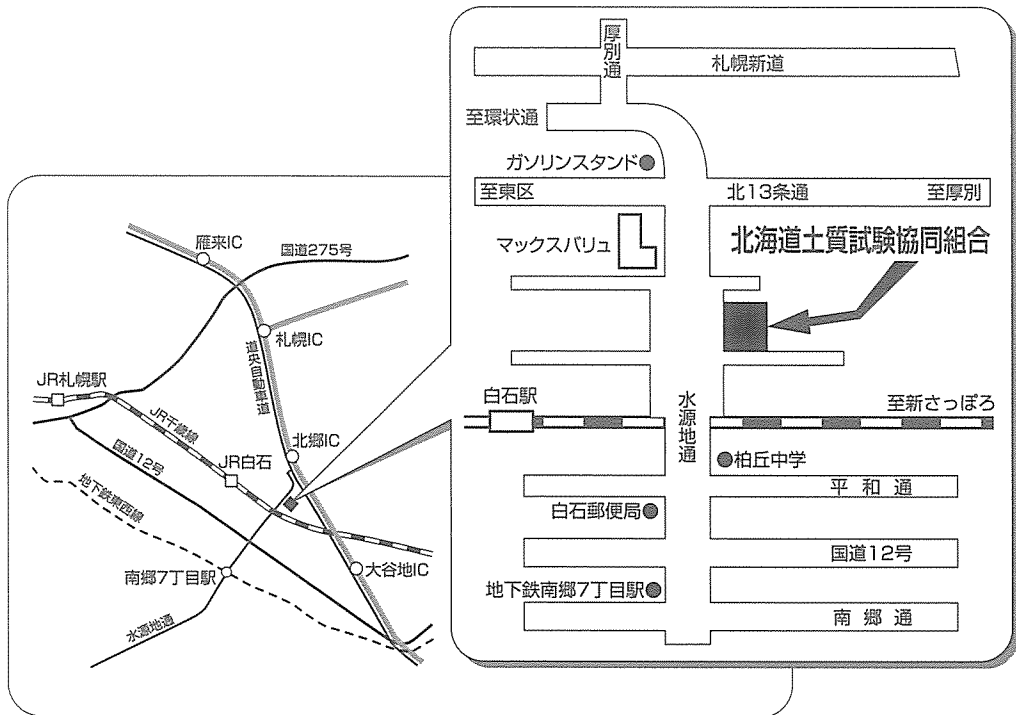
出身地：大分県豊後大野市

最終学歴：愛媛大学理学部地球科学科

採用日：令和5年2月1日

自己紹介：このたび技術部に配属となりました國枝です。大学では鉱物学・地質学を専攻、卒業後はコンサルタント会社で地質・測量業務を担当、その後大手測量機器メーカーの営業職、陸上自衛隊で勤務をしていました。その他、札幌市の地方公営企業で下水道の事業調整を経験しています。業種、職種はさまざまですが、一貫して地盤に係る仕事をしてまいりました(自衛隊は穴掘り)。大学、コンサルタント時代での知識、自衛隊で培った体力と気力を活かし、一日でも早く皆様の力になれるよう精進いたします。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。





① 高速道路を利用した場合

旭川方面から 札幌IC出口より 約10分

小樽方面から 大谷地IC出口より 約10分

室蘭方面から 札幌南IC出口より 約15分・北郷IC出口より 約8分

② 国道を利用した場合

旭川方面から 国道12号から水源地通りを右折

小樽方面から 札幌新道(国道274号)から厚別通りを右折し水源地通りを左折

室蘭方面から 国道36号から水源地通りを右折

③ 公共交通機関を利用した場合

JRを利用した場合 JR白石駅下車、徒歩約15分

地下鉄を利用した場合 市営地下鉄東西線、南郷7丁目駅下車、徒歩25分

又は、北海道中央バス(白25番)に乗り継ぎ、北郷2条8丁目下車

● 発行所

北海道土質試験協同組合

〒003-0831 札幌市白石区北郷1条8丁目3番1号

TEL 011-873-9895 (代表)

FAX 011-873-9890 (総務部)

FAX 011-874-1910 (技術部)

ホームページアドレス <http://www.src.or.jp/>

地質調査業者登録

土壤汚染指定調査機関登録

ISO/IEC17025:2005認定登録

● 発行日

第399号 令和5年3月15日

● 編集責任者

折 笠 章

● 印刷

㈱エーシーピー TEL 231-7575

